

半田久美子 主任研究員



神戸層群の植物化石を整理している。主に神戸市須磨区、北区、西区で採集された葉の化石で、種子や果実の化石もある。

加東市や三田市、三木市で採集されたものも含まれている。

整理の方針は、採集地点ごとに分けてから、植物の種類順に並べることとした。1万点もあるのので、地点ごとに分けるだけで時間がかかった。

まず化石の付いた石に1点ずつ通し番号をつける。写真を撮り、石に記入されている採集地点情報や採集日等を表に入力し

た。終了したら表を採集地点ごとに並べ替え、それに従って化石を並べ替えた。到底1人では

できず、何人もの方々に担当していただいた。

次は植物の種類分けだ。1地点の資料が数十点までなら全体

①コナラ属の化石
②セミナー室で植物化石の仲間分けをした様子



を見て分けることができる。ところが300点を超えるものもあったため、広いセミナー室を使うことにした。セミナー「葉の化石を調べよう」として実施し、長机に化石を並べて、参加者とともに化石の仲間分けを進めている。

観察のポイントは、まずは大



植物化石

きさや形、切れ込みがあるか、葉脈の走り方だ。次にルーペで拡大し、鋸歯と呼ばれる葉の縁のギザギザや、葉脈の走り方など細部を検討する。見ていくと現在のケヤキやブナ、クヌギに似た葉が見つかった。特徴的な葉脈をしているのに種類が特定できず困ることも多い。

困った時に参考にするのは、葉で見分ける図鑑や葉脈標本データベースだ。図鑑は検索部分の写真を眺めて手掛かりをつかむのに使う。より詳細に検討する時に、国立科学博物館の葉脈標本データベースが有用だ。葉脈標本の画像を拡大して葉の縁の鋸歯や、細かい葉脈を比較する。葉の化石同定の参照用を目的に作られており、海外産の植物も含まれている。化石で出てくるが今は日本に分布しな

いヌマミズキ属や切れ込みのあるコナラ属の葉なども調べられる。

もちろん現在の葉も参考にする。1本の樹木の葉でも1枚ずつ形が違うので、特徴を細かく調べるほど変異に幅があることが見えてきて、かえって困ることもあった。

化石を見ると、当時の落ち葉を現在見られることを奇跡のように感じる。枝に付いたまま化石になった葉は、台風のような暴風で落ちて化石になったのだろうか。植物化石の含まれる白い石は凝灰岩といい、火山灰でできている。火山灰の生き物への影響はどうだったのだろうか。当時の植生を復元するために、まずは1万点の資料の登録を進めたい。

資料1万点、地道な整理